

## 〈(3)-13〉

主体者/ 連携・協力先	イーグルバス株式会社、東秩父村、和紙の里/ 東秩父村、和紙の里、NPO川越蔵の会、JA
取り組み名称	東秩父村の小さな拠点構想による地域活性化と交通再編
取り組みポイント	■ (1) 地域交通の取り組み □ (2) 情報利活用の取り組み ■ (3) 生活基盤への取り組み
取り組み課題	ハブバスターミナルと施設機能を合わせた「小さな拠点」による地域再生と公共交通維持の取り組み

### <取り組みの概要>

埼玉県唯一の村で過疎地指定されている「東秩父村」は国が発表した消滅可能都市全国ワースト20位の村である。高齢化と人口減少によって村内を走る村営バスと民間バスは利用者の減少で消滅の危機にあった。また連続した商店もないために住民は村外に車で買い物に行くしかない。生活基盤が年々失われていく一方で自家用車免許を返納する高齢者が急増している現実には日本各地同様であり、この問題を解決するためには、従来のバスだけを考える個別政策ではなく、「地域おこし」という包括政策の中でこの地域へ人を集め、移動させる役割であればバスはまだ維持する事は可能であると考えた。

路線バスの主な利用者は主に通勤通学者であるが地方の過疎地では少子高齢化と人口減少によって路線バスの利用者は年々減少し、通勤時間が終わった昼間は空気を運んでいる状態である。そこで昼間観光客を路線バスに取り込む事でこの需要のギャップを埋めることができる。そのためには地域おこしによって観地域おこしを実施しここに集まる観光客を取り込む事で、バスの利用者が増加し、同時に地域活性化が可能である。

弊社は東秩父村にある花の群生等の豊富な自然、ユネスコ無形文化遺産登録された「細川和紙」、そしてハイキングのメッカとして訪れるハイカーに注目し、こうした観光資源を活かすために村の和紙体験施設「和紙の里」をハブ拠点とし、ここに住民の日常に必要な買い物施設や行政サービス、観光客サービス施設の導入と、ハブバスセンターを設置し、駅やハイキングコースをバスで結ぶ事で、地域に人が集まり地域が活性化し、公共交通を維持できる、ハブ化と観光施策による「小さな拠点化」構想に取り組みこれを実現化した。

### <取り組みポイントについての具体的説明>

#### (1) 地域交通の取組み

- 1) 東秩父村では寄居駅を結ぶ村営バスと小川町駅を結ぶ民間バスがあったがこれを統合再編し両路線のバスに乗降センサーを設置し長期にわたる乗降データによって運行力の再分配を実施、利便性を維持しながら1ダイヤ減少させて運営コストを削減した。
- 2) 村の和紙体験施設である「和紙の里」をハブ化拠点とし、ここにバスターミナルを設置し、すべてのバスを結束させることで効率化を図った。
- 3) 和紙の里に買い物施設やフードコート、行政サービス、観光サービスを導入することで住民の利便を高め、また住民や東秩父村を訪れるハイカー、観光客が集まる、村の新たな賑わいの場「小さな拠点」とした。

#### (2) 情報利活用の取組み

- 4) 東秩父村はハイカーのメッカとして多くのハイカーが訪れており、季節が良い週末はハイカーの利用によって平日よりも利用者数が多い。一方従来は駅からハイキングコースへ直行していたことで村への経済効果はなかった。ハブ化して和紙の里を経由する事で和紙の里での買い物、飲食による経済効果が実現できる。
- 5) 東秩父村にある花の群生はマイカーか健脚なハイカーしか行けないが「和紙の里」のハブバスターミナルから季節に応じたフラワーシャトルを運行する事で都内から手ぶらで来られる新たな観光客の誘致が可能となる。本年度は5月に天空のポピーで運行した。
- 6) 和紙の里と新たに設置された行政サービスと観光案内所は年間無休で実施されており、村の姿勢が積極的に変わった。住民は村外に行かないで買い物や食事が出来るようになり住民の利便性が大きく高まった。
- 7) 地域おこしは経験と時間が必要であることから、小さな拠点構想にはコンサルでなく、地域おこしで成功している川越市のNPO「蔵の会」の協力でデザインを行った。施設機能が整い今後は観光客へのサービス拡大や観光イベント等のソフト戦略が必要であり、地元の若い人を巻き込んだ地域おこしの指導をしていく予定であり、若い人に希望を与える事ができる。